

かぐや姫の言ふやう

親ののたまふことをひたぶるに辞び申さむことのいとほしさ」

--	--

尊・謙・丁の本動・補助動

から

への敬意

尊・謙・丁の本動・補助動

から

への敬意

皇子の翁に)のたまはく

命を捨てて、かの玉の枝もちきたるとて、かぐや姫に見せ奉りたまへ」

--	--	--

尊・謙・丁の本動・補助動

から

への敬意

尊・謙・丁の本動・補助動

から

への敬意

尊・謙・丁の本動・補助動

から

への敬意

皇子が)三日ばかりありて、漕ぎ帰り給ひぬ

--

尊・謙・丁の本動・補助動

から

への敬意

(ある女の親が女の求婚者二人に、結婚条件を述べる文)

申さむと思ひたまふるやうは、この川に浮きはべる水鳥を射たまへ」

--

尊・謙・丁の本動・補助動

から

への敬意

源氏が)船より御車にたてまつり移るほど

--

尊・謙・丁の本動・補助動

から

への敬意

天君は)心地もまことに苦しければ、物もつゆばかり参らず

--

尊・謙・丁の本動・補助動

から

への敬意

